

虐待を受けた高齢者は3年後のうつ2.3倍 うつの高齢者は3年後の虐待経験が2.2倍 ▶高齢者のうつは虐待の原因で、結果でもある

高齢者虐待は日本だけでなく世界中で問題になっている深刻な課題のひとつです。これまで多くの研究で、虐待がうつを含むメンタルヘルスの悪化と関連することが報告されてきました。しかし、うつが原因で虐待を受けるようになるのか、あるいは虐待を受けた結果としてうつになるのか、どちらの方向の関連が強いかは明らかになっていませんでした。そこで私たちは65歳以上の高齢者1,737名を対象に、高齢者虐待とうつの関係性を双方向から調べるために2つの分析を行いました。その結果、虐待を受けた人はそうでない人に比べて、3年後2.28倍うつを新規発症するリスクが高いことがわかりました。またうつの方はそうでない人に比べて、3年後2.23倍虐待を受けるリスクが高いことがわかりました。これは、虐待とうつの因果関係に迫った世界でも最初の論文となります。この研究の2つの分析により、うつは虐待の原因と結果の両方であり、双方向の関係を示していることが明らかとなりました。虐待とうつの負のスパイラルを避けるためには、両方向からの予防戦略が必要であることが考えられます。

お問合せ先：千葉大学大学院医学薬学府 古賀千絵 chiekoga@chiba-u.jp

◆虐待を受けた者は受けない者に比べ、3年後うつになる可能性が2.28倍高い



◆うつの者はそうでない者に比べ、3年後虐待を受ける可能性が2.23倍高い



■背景

高齢者虐待は、世界的に健康に悪影響を及ぼすリスクを高める深刻な公衆衛生上の懸念です。これまで多くの研究で虐待がうつを含むメンタルヘルスの悪化と関連することが示唆されてきました。そしてうつもまた、自殺やその他疾患にもつながることが明らかとなっているため、早急な予防を含む対策が求められています。これまで虐待をうけることによってうつを発症すると考察されてきましたが、逆の因果の可能性もめぐっていませんでした。すなわち、うつが原因で虐待を受けるようになるのか、あるいは虐待を受けた結果としてうつになるのか、どちらの方向の関連が強いかは明らかになっていません。そこで本研究では、虐待とうつの関係性を双方向から検証し、どちらが結果で原因になりうるのか明らかにすることを目的としました。

■対象と方法

日本老年学評価研究（JAGES）のデータを用いて、2回の分析を行いました。データはJAGESが2010年と2013年に郵送調査で収集したものを用いました。その中から虐待の項目に回答、年齢・性別のデータも欠けていない1,737人（女性983人、男性754人）を分析対象としました。高齢者虐待は、身体的、心理的、経済的虐待のうち、いずれかがある者を「虐待あり」と定義しました。一つ目の分析では、2010年で虐待を受けていない者に比べて虐待を受けている者が、3年後うつの発症のリスクが高いか検証しました。二つ目の分析では、2010年でうつではない者に比べてうつの者が、3年後虐待を受けるリスクが高いか検証しました。両分析ではロジスティック回帰分析を行いオッズ比を算出し、個人要因である年齢、性別、等価所得、婚姻状態、家族構成の影響も考慮しました。

■結果

2010年に虐待を経験していない人のうち、2013年に新たに虐待を経験したのは男性38人（5.0%）、女性53人（5.4%）でした。一方、2010年に抑うつ症状がなかった人のうち、2013年に新たに抑うつ症状があったのは男性60人（8.0%）、女性61人（6.2%）でした。分析1で個人要因を考慮した後でもなお、虐待を経験した人は、そうでない人に比べて3年後に抑うつ症状を持つ可能性が2.28倍（95%信頼区間[CI]=1.68-3.09）高いという結果となりました。分析2では、2010年に軽度または重度のうつを発症した回答者は、そうでない回答者に比べて、3年後に虐待を経験している可能性が2.23倍（[CI]=1.61-3.10）高いという結果となりました。

■結論

うつは、高齢者虐待の原因にもなり、結果にもなっていることが本研究から明らかとなりました。

■本研究の意義

今回の研究結果により、虐待とうつの関係性が明らかとなりました。しかし実際に起きている虐待のケースでは、新規発症ではなく、虐待とうつが同時に発生するような負の連鎖が起こっている可能性が考えられます。したがって、虐待の予防へのアプローチは双方向から考えるべきであるということが分かりました。

■発表論文

Koga C, *Tsuji T*, Hanazato M, Suzuki N, Kondo K. Elder abuse and depressive symptoms: Which is cause and effect? Bidirectional longitudinal studies from the JAGES. Journal of Interpersonal Violence, 2020. In press

■謝辞

本研究は、日本老年学的評価研究プロジェクトの2013年データを使用し、下記の助成を受けて実施しました。記して深謝します。 This study was supported by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology-Japan supported Program for the Strategic Research Foundation at Private Universities (20092013), JSPS (Japan Society for the Promotion of Science) KAKENHI (grant Nos. JP22330172, JP22390400, JP23243070, JP23590786, JP23790710, JP24390469, JP24530698, JP24683018, JP25253052, JP25870573, JP25870881, 19K04785 and 20K13721), Health Labor Science Research Grants (H22-Choju-Shitei-008, H24-Junkanki [Seishu]-Ippan-007, H24Chikyukibo-Ippan-009, H24-Cho-ju-Wakate-009, H25-Kenki-Wakate-015, H26-Irryo-Shitei003 [Fukkou], H25-Choju-Ippan-003, and H26-Choju-Ippan-006) from the Ministry of Health, Labor and Welfare, Japan, the Research and Development Grants for Longevity Science from AMED (Japan Agency for Medical Research and Development), a grant from the National Center for Geriatrics and Gerontology, Japan (24-17, 24-23), and a JST-OPERA program grant (JPMJOP1831).